

★チャレンジ！夢に向かって★

～ふるさとを愛し、一人一人が「か・が・や・く」国見の子の育成～

＜開校141年目＞8月25日は本校の開校記念日！！

8月25日は開校記念日です。学校要覧には本校の歴史を掲載しています。本校の歴史を振り返ってみると、明治15年8月25日に国見尋常小学校として開校し、昭和45年4月1日に太田北小学校という校名になるまで目まぐるしい校名の変更と校舎の移転改築を経て、今日に至っています。本校の歴史を語る上で忘れてはいけないのが「国見の石合戦」です。太田町史には次のように記載されています。

明治25年には、町村制で国見村と横沢村が合併となり、昭和3年まで横沢村には2つの小学校があった。村の経営と財政の大きな部分は学校の運営であり、昭和4年に村の財政事情から、学校の統合問題が起きた。これは、横沢と国見の学校を統合し、新たに横沢と国見の間である窪堰南に学校を建設しようとする村の案に、国見の住民が一致団結して反対したものであった。

国見から学校がなくなり、子どもらの通学も不便となる。これは地域の一大事であり、当時の村と村長の独断に対して、政治不信がつり村人たちが実力行使におよんだ。昭和4年8月のことである。50人を超える警察官が10日間以上も警戒にあたっていたところに、国見の人たちが死活問題であると投石、乱闘事件となった。この乱闘事件に参加した住民は、女性や子どもも含めて400人以上とされ、多くのけが人と100人もの村人が警察署に連行されるなど、国見の学校の廃校事件・国見の石合戦として新聞報道も連日のものとなった。

この国見の学校事件は、県議会をも巻き込み、昭和4年10月には、国見の人たちの願いがなかった形で国見に分教場を残すことで事件は決着した。

この事件は、国見の団結を示すものとなり、今日まで「国見の石合戦」として語り継がれている。

こうした先人たちの教育に対する熱い思いを感じるとともに、シンボルの松の木と共にしっかりと根をおろし、これからも学校・保護者・地域がつながり、ふるさとを愛し、一人一人が「か・が・や・く」国見の子の育成を目指し、太田北小学校の新たな歴史を築いていきたいと考えています。

連絡

夏休み中の校長との面談のお願いしました保護者連絡ツール「teroru（テトル）」について、全ての保護者から8月16日（金）まで登録していただきました。一昨日から、学校だより等は「teroru（テトル）」を使って配付しています。欠席等の連絡の際にもぜひ御活用ください。なお、不具合が生じた際には学校に電話等で連絡ください。

また、7月3日の学校だよりNo. 61で連絡していますが、8月26日（月）～30日（金）までは詩の暗唱週間です。多くの子どもたちのチャレンジを期待しています。